

## 令和元年度第2 柏市地域包括支援センター運営協議会 会議録

### 1 開催日時

令和元年10月30日（水曜日）午後1時30分～3時00分

### 2 開催場所

ウェルネス柏4階 研修室

### 3 出席者

#### (1) 委員

濱田委員（会長）、織田委員（副会長）、植野委員、奥野委員、鎌田委員、高野委員、高橋委員、中村委員、羽鳥委員、村上委員

#### (2) 市

宮島保健福祉部長、石毛福祉政策課長、梅澤地域医療推進課長、宮本高齢者支援課長

#### (3) 事務局（地域包括支援課）

吉田課長、竹本専門監、村山統括リーダー、横山副主幹、出牛副主幹、秋谷副主幹、布施主任、八百板主事、相澤主事、堀毛主事補

#### (4) 地域包括支援センター

柏北部地域包括支援センター長（山本 敏子）

北柏地域包括支援センター長（齋川 英文）

北柏第2地域包括支援センター長（菅野 達郎）

柏西口地域包括支援センター長（笠原 大幸）

柏西口第2地域包括支援センター長（小野田 光芳）

柏東口地域包括支援センター長代理（大橋 令子）

柏東口第2地域包括支援センター長（神谷 昌宏）

光ヶ丘地域包括支援センター長（宮原 和正）

柏南部地域包括支援センター長（神津 南）

柏南部第2地域包括支援センター長（橋本 佳子）

沼南地域包括支援センター長（日笠 千晴）

#### 4 議題

- (1) 地域ケア会議について
- (2) 地域包括支援センターの増設について

#### 5 議事

- (1) 地域ケア会議について

事務局及び柏東口第2地域包括支援センター長より資料1に基づき、説明。

<主な意見>

##### 【高野委員】

要介護のかたには、口の中の状況が悪く、食べたいが食べられないというかたがいるため、まず口の中の状態を見る必要がある。

歯が少なくなり口の機能が低下してくると、ご飯からおかゆへの変更や栄養補助食品の使用で対応することがあるが、糖質の増加やタンパク質の摂取量の減少につながり、栄養の管理が難しくなる等、機能を維持するより低下させる方向になってしまう点が課題。

介護者は口の中のことを後回しにしてしまう傾向にあるが、まず口の中を確認して、歯があるのか、入れ歯は使っているのか等を確認してもらえると栄養のリスクは改善されるのではないかと。

##### 【高橋委員】

患者と薬を飲むタイミングや薬の飲み合わせについて話すことはあるが、栄養の話は薬局でもあまりできていない。

高齢者が食べたくないと思う要因の一つに、薬の副作用による胃腸障害がある。高齢者は飲む薬の数が多いため、胃腸障害が起きやすいが、在宅で訪問サービス等が入っていないかたや薬局の窓口に来られないかたはそういった要因に気づきにくく、積極的に関われる環境がない。

薬剤師会にデイサービス等での薬に関する出張相談や薬の管理の依頼があれば対応が可能である。

栄養剤でお腹がいっぱいになり、食事が食べられないかたに

は、薬を飲む際に栄養剤を使うよう指導をしている。このような指導をする機会があれば声をかけてもらいたい。

#### 【中村委員】

一人暮らしのかたや男性等料理に不慣れなかたが主介護者の場合、調理をすることや献立を考えることが難しく、菓子パンや市販のお弁当の食事になってしまうことが多いため、調理が簡単でバランスのよいメニューやレシピを地域包括支援センターでつくり、それをケアマネやヘルパーから紹介してあげられるとよい。そこから興味を持ってくれれば、男性の料理教室に繋げる等の外に出られる環境づくりができればよい。

あるコミュニティカフェをよく利用している男性で、毎晩の夕食に加え、朝食用のおにぎりを作ってもらおうといったよい関係を築けているかたがいる。様々な手段で外との関係を作る第一歩があるとよい。

また、資料にはBMIが低いかたのことが示されているが、肥満のかたの体重管理が難しいことも課題。体調不良で痩せることはあるが、体調が戻れば体重は戻ってしまう。具体策がないと痩せるのは難しいため、ヘルパーやケアマネが地域包括支援センターが考えた献立を紹介するなどできるとよい。

#### 【植野委員】

孤食に関して、外に出かけたいと思っても気軽に利用できる移動手段がないという課題がある。自分で買い物に行って食材を選べないと調理へのモチベーションが下がってしまうかたも多いため、移動手段を市で考えてほしい。

ケアマネが栄養士に気軽に相談できる環境がない。歯科医師や薬剤師は相談先があるが、栄養士に相談したい場合、どこに行けばよいか分からないため、対策を考えてほしい。

#### 【奥野委員】

豊四季台団地で地区社協と民生委員が主催している一人暮らし高齢者の食事会に参加した。200名近くの参加者がおり盛況だった。地域でこういった取り組みを続けていくとよい。

他市では子ども食堂を積極的に実施している市があるが、車

で子ども食堂に来ることや無料コミュニケーションアプリで食堂に関する連絡を取る等、本来の目的と異なる社交の場になっているという課題が出ている。柏でも将来的に同様の課題が出てくる可能性がある。

今年の4月に高齢者からサロンを作りたいと地域包括支援センターに相談があり、市社会福祉協議会の地区担当と地域支えあい推進員も協力して準備を行い、これまでに3回開催したが、準備において大変だったことが3点あった。

1つ目は会場に関する事。体操を行うとすると、ある程度の広さを有する会場が必要であり探すのが大変であった。介護施設でも行いたいと思っているが、場所の確保が難しい。

2つ目はサロン運営のスタッフに関する事。当日のボランティアは集まるが、サロンの運営そのものを手伝ってくれるボランティアがなかなかいない。既存のサロンでは民生委員や町会の役員が取り組んでいるようだが、新しく作るサロンではそのような人材を見つけることが難しい。

3つ目は費用の問題。参加費を徴収し運営しているが、町会の会館を借りると赤字であり、現状では費用の工面が難しい。

#### 【鎌田委員】

サロンや食事会の開催に関しては、人、物、金が課題になっている。

人に関しては、担い手が高齢化し、引き継いでくれる人がいないという課題がある。また、参加者側にも友人や知人の紹介がないと参加しにくいことや安価でないと行きにくい等の課題がある。

物に関しては、場所の確保が難しい。公共施設だと制限があり、週1回や月1回で継続することが難しい。サロンを続けていく中で参加者が増え、会場が狭くなるケースもある。

金に関しても、月2回開催しているサロンでは補助金額を増やしてほしいとの要望がある。自宅で週1回開催しているサロンでも補助金額が増えれば自宅以外の場所が確保できる。

声かけ訪問の結果、新富地域では75歳以上で一人暮らしの高

高齢者の約 9 割が孤食となっている。また，一人暮らしでなくても家族と時間が合わずに一緒に食事ができていないケースもある。子ども食堂のような場所に高齢者でも行きやすくなる雰囲気づくりをしてほしい。

**【村上委員】**

中央地域の高齢者を対象にしたサロンでボランティアをしているが，食事会は人気があり参加者も多い。

高齢者が参加しやすいよう送迎をしてくれるお店を開催場所とするなどの工夫をしているサロンもあるが，弁当を用意するサロンでは，事前に参加者数を把握しきれないため，弁当を多めに用意し，残った分をボランティアが買い取っているという課題をもつサロンもある。

ボランティアをしているサロンは，現在 2 箇所で開催しているが，2 階が会場となる場合の階段の昇降で苦勞されるかたや自宅からの距離が遠く来られないかたもいる等，会場の選定での課題がある。

また，住宅型施設を会場としているところでは，食堂で温かい食事を提供してもらっているが，当日参加により，事前に伝えていた食数では足りないことや入居者が増えたことで予定した時間に食堂を利用できないことがある等，会場側と入念な打合せを行った上での開催が必要と感じている。

**【羽鳥委員】**

みんなで集まると食欲が無くても交流ができるため，共食の場がもっとたくさんあるとよい。

**【織田委員】**

高齢者の低栄養は珍しいことではなく，味覚が落ちる，嗅覚が落ちる，胃の運動量が落ちるといった生理的な要因で食事がとれなくなり痩せてしまうことが多い。また，癌などの悪性疾患は必ず体重減少が起こるため，病気がベースで食べられなくなるかたを見逃してはいけない。

薬が原因で食べられなくなるかたも多いため注意が必要。血圧の薬や睡眠薬にも食欲を落とす効果があり，薬を減らした結

果、食欲が戻るかたもいる。

一見関係ないように思えるが、心臓や肺が悪いことで食べると疲れてしまい、食べられなくなるかたもいる。その他、甲状腺の異常など、高齢者の低栄養の原因となる医学的な要因は少なくなく、まず原因を考え、それをもとに対策を考えることが必要。

栄養士と連携して身長体重や血液検査の結果を指標にしなが  
ら、必要なカロリーや栄養素を計算し対応していくと回復する  
かたも多い。

#### 【事務局】

1点目の食事管理への支援に関して、市では医療介護の多職  
種連携の仕組みをベースに、栄養士と連携を図る取組みを行っ  
ている。また、介護予防個別会議で栄養士に助言をもらえる仕  
組みがあるが、栄養士会にも相談をして、個別の相談に対応で  
きる仕組みを検討していきたい。

併せて、かかりつけの医師や歯科医師、薬剤師にも気軽に相  
談できる仕組みを整えていけるように専門職の皆様に御協力い  
ただきたい。来年度に向け、具体的な形を作ってから相談に行  
けたらと考えている。

通いの場や居場所づくりに関して、地域のかたの力にのみ頼  
っていては難しいが、それ以外の手立ての調整や資源開発がで  
きていない。補助金等の面を見直していくことも重要。高齢者  
向けの施設や飲食店を活用して気軽に集まれる場を整えていけ  
るように民間のかたとのネットワークづくりを市が責任をもっ  
て果たしていく必要がある。

本日の御助言を政策形成に活かしていきたい。

#### 【奥野委員】

運営協議会に向けて、地域支えあい推進員6名に地域ケア個  
別会議や介護予防個別会議に出席した感想を聞いてきた。

地域ケア個別会議では、個別課題への具体的な対応について  
の話が展開され、非常にいい取組みに繋がっているという感想  
が多かった。

しかし、介護予防個別会議については、地域支えあい推進員は地域資源の情報提供ということで呼ばれているが、他の助言者のように情報を提供できていない。せっかく出席するからには顔繋ぎの場になればよいが、なかなかうまく関わっていないことが残念という感想だった。

#### 【事務局】

介護予防個別会議には、ケアプランの検証の中で地域のインフォーマルサービスに繋げて自立を促す策を検討する際に、地域資源に関する情報を提供いただくために地域支えあい推進員に出席していただいている。実際に本人のエリアの町会の情報を提供していただき、とてもありがたい。

しかし、短い時間の会議では消化不良に終わることもあると考えられるため、会議以外の場面でも関係者とネットワークを作れるように工夫をしていければと思う。

#### (2) 地域包括支援センターの増設について（非公開で開催）

事務局から令和元年10月23日に実施された柏市プロポーザル方式選定委員会（柏市地域包括支援センター業務委託）の選考結果を説明した。

説明後、柏北部第2地域包括支援センターの受託法人をアースサポート株式会社に決定することが了承された。

### 6 報告事項

#### (1) 介護予防支援及び総合事業に係るケアマネジメント業務の委託について

事務局より資料3の事業者を新規委託事業者及び遠隔地居住者の委託事業者とすることを報告。

### 7 傍聴

#### (1) 傍聴者

3人

#### (2) 傍聴状況

傍聴要領に反する行為は見受けられなかった。

### 8 次回開催日時（予定）

令和2年2月19日（水）午後1時30分から